

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																															
専門学校九州デザイナー学院		昭和58年3月29日		藤 弥生		〒 812-0011 (住所) 福岡県福岡市博多区博多駅前3-8-24 (電話) 092-474-9234																															
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																															
学校法人Adachi学園		昭和42年1月12日		安達 暁子		〒 101-0062 (住所) 東京都千代田区神田駿河台2丁目11番地 (電話) 092-474-9234																															
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																														
文化・教養	文化・教養専門課程		インテリアデザイン学科		平成19(2007)年度	-	平成28(2016)年度																														
学科の目的	インテリア業界で卓越した又は熟達した実務の知識・経験に基づく高度の専門的かつ実際的な知識・技術等を教授し、職業に必要な実践的な能力を育成することを目的とする。																																				
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	アナログ、デジタル両方の授業が学べます。産学協同プロジェクトにおいて、ホンモノの仕事に携わることができます。(昨年度中退率:0%)																																				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技																													
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 1,920 単位時間 単位		128 単位時間 単位	2,304 単位時間 単位	単位時間 単位	単位時間 単位	単位時間 単位																													
生徒総定員	生徒実員(A)		留學生数(生徒実員の内数)(B)		留學生割合(B/A)																																
60人	51人		1人		2%																																
就職等の状況	<p>■卒業生数(C) : 19人</p> <p>■就職希望者数(D) : 17人</p> <p>■就職者数(E) : 17人</p> <p>■地元就職者数(F) : 10人</p> <p>■就職率(E/D) : 100%</p> <p>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 59%</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 89%</p> <p>■進学者数 : 0人</p> <p>■その他 : 0人</p> <p>(令和4年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) デザイン事務所/家具制作販売企業/住宅メーカーなど</p>																																				
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載				無																																
当該学科のホームページURL	https://www.kdg.ac.jp/course/illustration/																																				
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>2,560 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>32 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>32 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>32 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位</td></tr> </table>									総授業時数	2,560 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	32 単位時間	うち必修授業時数	32 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	32 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位時間	総授業時数	単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位	うち必修授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位
総授業時数	2,560 単位時間																																				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位時間																																				
うち企業等と連携した演習の授業時数	32 単位時間																																				
うち必修授業時数	32 単位時間																																				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位時間																																				
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	32 単位時間																																				
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位時間																																				
総授業時数	単位																																				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位																																				
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位																																				
うち必修授業時数	単位																																				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位																																				
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位																																				
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位																																				
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>2人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <p>2人</p>									① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	2人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人	計	2人																
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	2人																																				
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0人																																				
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																				
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人																																				
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人																																				
計	2人																																				

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業等と定期的に会議等を通じて意見交換を行い、編成・改善を行う。協議内容は、授業教科目の名称や授業内容・方法の改善・工夫をはじめ、演劇業界の動向をふまえ、働く為に必要とされる科目設定・授業内容等とし、授業方法は演習型授業(知識・技術)を主体に行う

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

学校教育法第133条、並びに学校教育法施行規則189条、及び学校法人Adachi学園理事会の決議に基づき、教育課程編成委員会を置く。この委員会は、教育の質の保証及び改善をするため、専門学校九州デザイナー学院の教育活動の状況に関する評価を行い教育活動の更なる躍進の為活動をするものである。教育課程編成委員会が出された意見を基に、専任教員で行う学務会議で其々の意見を審議し、即時対応できるものは学科長がカリキュラムやスケジュールに落とし込む。校長及び学科担当者で、学科間の調整を図り、各学期の始めに行われる講師会及び各学科の分科会で、学校・学科の方向性を示し、授業に反映させていく。問題が生じた場合は随時対応し、より良いものに変更を加えていく。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年10月1日現在

名前	所属	任期	種別
藤 弥生	専門学校九州デザイナー学院 学校長	平成31年4月1日～ 令和5年3月31日	
平川 俊介	専門学校九州デザイナー学院 インテリアデザイン学科長	平成31年4月1日～ 令和5年3月31日	
西村 つかさ	専門学校九州デザイナー学院 事務長	平成4年4月1日～ 令和5年3月31日	
原田 啓二	日本商環境デザイン協会 九州支部支部長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日	①
魚住 繁樹	アレックスコーポレーション株式会社 代表取締役	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日	③

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年間2回開催(毎年5月、11月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年5月10日 13:00～14:10

第2回 令和5年11月コロナウイルス感染症第6派懸念により中止

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

意見:業界の離職率が高いことから、改善する方法はないだろうか。

回答:産学協同を通してモノづくりの難しさを体感することで、在学中に社会の厳しさを経験し、離職率を抑えるだけでなく、じっくりと対応する我慢強さを身につけることに役立っていると思える。

意見:業界は技術よりもヒューマンスキルを重要視する傾向。学校の対策について意見を聞いてみたい。

回答:生活指導に力を入れ、道具を大切にすることなどを指導している。また、産学協同を利用しコミュニケーション能力向上のため、プレゼンテーション力を磨くことなど積極的に取り組んでいる。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

授業方法は職業実戦的な演習型授業(実験・実習・実技)を主体的に行う。特に、産業界や職業人が求められる知識・技能や最新の実務を反映した教育を行うため、企業が学習活動に関わり、相互理解が深められる学習機会(企業実習、企業参加の学内実習活動等)を設定する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業が求める技術レベルや人材を育てるため、実践学習を通し、企業の方から学生への指導に必要な課題内容の検討、必要な資格などの意見交換を行い、カリキュラムへ取り入れる。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
地域貢献プロジェクト	デザインをカタチにの手始めとして、企画制作や提案、プレゼンテーション、設計・施工に触れる。	アレックスコーポレーション株式会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教育の質を客観的に保証するために、経済・産業界・放送業界の動向・人材需要に即し、最新の実務の知識・経験に基づく実践的な知識・技術を教授すべく適切に教員に対する研修等を、教職員研修規定により行なう。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	JCD九州支部定期ミーティング	連携企業等:	日本商環境デザイン協会 九州支部
期間:	2022年9月1日(金)	対象:	教員
内容:	インテリア新商材・業界の取り組みの紹介		
研修名:	JCD九州支部定期ミーティング	連携企業等:	日本商環境デザイン協会 九州支部
期間:	2022年11月15日(金)	対象:	教員
内容:	インテリア新商材・業界の取り組みの紹介		
② 指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	ハラスメント研修(動画教材・eラーニングコンテンツを使用)	連携企業等:	Adachi学園グループ
期間:	2022年8月1日(月)～8月5日(金)の期間内	対象:	教職員
内容:	ハラスメントの理解を深め、個人と組織としてのハラスメント防止対策について身につけることを目的。		
研修名:	人権・同和研修	連携企業等:	福岡県・学事課、専修学校協会
期間:	2022年11月29日(火)15:00～16:30	対象:	教職員
内容:	「人権尊重の理念」～「可能性」に伝えるために～ 水平社から同和教育、いじめ・人種差別など		
研修名:	人権・同和研修	連携企業等:	福岡県・学事課、専修学校協会
期間:	2023年2月15日(水)15:00～16:30	対象:	教職員
内容:	パワーハラスメント防止措置の義務化 および改正育児・介護看護法 グループディスカッション		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: Vector works教育シンポジウム2023	連携企業等: エーアンドエー株式会社
期間: 2023年8月23	対象: 教員
内容: CAD教育のミライとDX	
研修名: JDC九州支部定期ミーティング	連携企業等: 日本商環境デザイン協会 九州支部
期間: 2023年9月22	対象: 教員
内容: 福岡市立高木小学校デザインスクールキャラバンについて	
研修名: JDC九州支部定期ミーティング	連携企業等: 福岡県・学事課、専修学校協会
期間: 2023年11月予定	対象: 教員
内容:	

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 人権・同和研修	連携企業等: 福岡県・学事課、専修学校協会
期間: 2023年11月10日	対象: 教職員
内容:	
研修名: 人権・同和研修	連携企業等: 福岡県・学事課、専修学校協会
期間: 2024年2月予定	対象: 教職員
内容:	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

自己評価の評価結果について、卒業生、企業等の関係団体、地域住民などの専門学校と密接に関係するものと理解促進や連携教育により学校運営の改善を図る。限られた時間を有効に活用するために、重点課題などを取り上げ審議を行っていく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	学校の理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	目的等に沿った運営方針の策定
(3) 教育活動	キャリア教育の視点に立った教育方法などの実施
(4) 学修成果	キャリア形成の効果を把握し学校の教育活動の改善
(5) 学生支援	卒業後の進路に関する体制の整備
(6) 教育環境	教育上または安全の十分な施設・設備の整備
(7) 学生の受入れ募集	高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取り組み
(8) 財務	目的・目標に照らした有効かつ妥当な中期計画的な年度予算
(9) 法令等の遵守	法令と設置基準等の遵守と適正な運営
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献のための学校の教育資源や施設を活用
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

自己評価と関係者評価の評価差異がどこにあるのか、異なる点を吟味することで、問題点を抽出する。当然、関係者評価が厳しい場合は、本校が行なっていることが伝わっていないか、評価されていない点だと真摯に受け止め、改善・改良を加えていくことに尽きる。今年度は半導体不足に於けるPC等の機材導入状況や、大雨災害が頻発する中、有事の際の学校の備えなど、世情で問題視されている点に対し確認がなされたが、学校側の前向きな対応に安堵されていた。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
平田 章裕	福岡県洋菓子協会	令和3年9月1日～ 令和5年8月31日(2年)	業界団体
荻田 英二	(株)荻田商業建築デザイン事務所	令和3年9月1日～ 令和5年8月31日(2年)	卒業生
田中 誠二	オリエンタルホテル福岡	令和3年9月1日～ 令和5年8月31日(2年)	卒業生
福島 眞祐	福岡市博多区博多駅前3丁目2区自治会	令和3年9月1日～ 令和5年8月31日(2年)	自治会長
藤 厚久	福岡県博多女子高等学校	令和3年9月1日～ 令和5年8月31日(2年)	学校長が必要 し認めらる
藤井 亨	株式会社Too	令和3年9月1日～ 令和5年8月31日(2年)	学校長が必要 し認めらる
小川 倫恵子	アミ・シュプール	令和3年9月1日～ 令和5年8月31日(2年)	卒業生
溝江 多佳子	株式会社イクティス	令和3年9月1日～ 令和5年8月31日(2年)	学校長が必要 し認めらる
後藤 大輔	税理士法人アーク・パートナーズ	令和3年9月1日～ 令和5年8月31日(2年)	会計士
吉塚 正希	株式会社映像ボックス	令和3年9月1日～ 令和5年8月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://www.kdg.ac.jp/information.html>

公表時期: 2023年10月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

URL: <https://www.kdg.ac.jp/information.html>

公表時期: 令和5年10月31日

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の教育・人材教養の目標・教育活動計画
(2) 各学科等の教育	カリキュラム、卒業生数、卒業後の進路
(3) 教職員	各教員の担当科目、校務分掌組織等、教職員の研修・研究活動
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校・学科の行事(イベント)の取組とその評価結果
(6) 学生の生活支援	就職に関する体制、卒業生への支援体制
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金の取扱い
(8) 学校の財務	事業報告書
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://www.kdg.ac.jp/information.html>

公表時期: 2023年10月31日

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 インテリアデザイン学科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		色彩	デザイン分野での実践に役立つための色彩知識を学ぶ。習得した知識をベースに、感性や伝えたいメッセージを表現する技術を身につける。	1・前	32	2	○			○			○	
2	○		インテリアジョブ	・職種の理解と希望職種の決定 ・就職する目標企業の設定 ・就活を始める準備と心構え	1・前	32	2	○			○		○		
3	○		インテリアデザインⅠ	①アウトプットができる(書く、話す、行動する)②平面図、展開図、天井伏せ図を理解し表現できる③インテリア基礎知識を理解する(各テスト80点以上)	1・通	128	8		○		○		○		
4	○		クリエイティブワーク	①進級制作の企画書～平面構成を最後まで諦めずにやり遂げる!②Sketch→イメージをスケッチで表現できるようになる③Solid→素材そのものと加工方法を知る	1・通	128	8		○		○			○	
5	○		デジタルワークⅠ	①素材そのものと加工方法を知る ②イメージを具現化において素材の選択と表現方法を養う	1・通	128	8		○		○			○	
6	○		CAD基礎	①デジタル作業の作法を理解しIllustratorやPhotoshop基本操作を習得し、簡単なデータ作成ができる②印刷用データ作成基本の理解と就職活動に備えたツールの作成③着色表現の習得からプレゼンパネルデータの完成	1・通	128	8		○		○			○	
7	○		パースペクティブ	スムーズに必要な図面や3Dデータの作成ができる。・図面から立体を想像し、図法を理解し、イメージした空間をパースで表現する。アナログ着色表現の基礎を習得する。	1・前	64	4		○		○			○	
8	○		設計製図	①インテリア設計製図の基本理解 ②基本を理解しCADや他の授業での応用	1・前	32	2		○		○		○		
9	○		地域貢献プロジェクト	デザインをカタチに	1・前	32	2		○		○		○	○	
10		○	スキルアップⅠ	基礎技術に於ける不明瞭な点を理解するためにインテリアデザインの全体を確認する。	1・前	32	2		○		○		○		
11		○	キャリアアップ	就職活動をするためのポートフォリオなど、作品の見せ方など参考資料を元に、プレゼンテーション能力を高めていく。	1・後	32	2		○		○		○		
12		○	スキルアップⅡ	基礎から応用に展開する上で、必要となるインテリアデザインの技術を理論的に理解していく。	2・前	32	2		○		○		○		

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 インテリアデザイン学科)															
必修	分類		授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
13		○	特別補講	2年前期履修カリキュラムの復習・サポート授業実施。業界就職・修飾後のサポートオンライン留学の実施から個々の視野を広げる社会人教育。	2・後	32	2		○		○	○			
14		○	ホームルーム	業界で活躍するために学んでいることへの理解度を図り、目標を持って取り組む意識を養う。	1通2通	128	8		○		○	○			
15		○	キャリアステップアップ	キャリアアップで理解した内容について実践を通し、自らの作品に対するプレゼン力を磨く。	1・通	64	4		○		○	○			
16		○	制作スキルアップ	作品制作を通して、ポートフォリオの完成を図る。就業先を見据え、業務に対する捉え方を考えていく。	2・通	64	4		○		○	○			
17		○	インテリアデザインⅡ	最低3案のアイデア出しゾーニング～エスキス～仕上げのルールでまとめ力をつける。説得力あるプレゼン力をつける。	2・通	128	8		○		○	○			
18		○	インテリアコーディネート	インテリアコーディネートに必要なエレメントの把握・表現方法の習得。	1・後	64	4		○		○		○		
19		○	インテリアジョブA	・12月から全員一気に就職活動開始の体制を整える。・ポートフォリオの一次完成。・7月までに50%内定12月に全員内定。	1後2通	192	12		○		○	○			
20		○	インテリアジョブB	・12月から全員一気に就職活動開始の体制を整える。・ポートフォリオの一次完成。・7月までに50%内定12月に全員内定。	1後2前	128	8		○		○	○			
21		○	3DCAD	3DCADによる表現力の向上。	2・通	128	8		○		○		○		
22		○	住空間デザイン	建築物全体のトータルコーディネート方法の把握。	2・前	64	4		○		○		○		
23		○	インテリアキャリアサポートA	全員業界就職。	2・後	64	4	○			○	○			
24		○	デジタルワークⅡ	・Illustrator便利機能を習得・Photoshop便利機能を習得・卒業検定作品のクオリティアップとプレゼンパネルデータの完成	2・後	64	4		○		○		○		
25		○	産学協同ゼミA	建築物全体のトータルコーディネート方法の把握。	2・通	128	8		○		○		○		

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 インテリアデザイン学科)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
			○	産学協同ゼミB	建築物全体のトータルコーディネート方法の把握。	2・通	128	8		○		○			○	
		○		企業研修Ⅰ	授業内で学んだ知識・技術を生かし、企業の求める人材となるため実践を行う。	2・前	320	20		○			○			
		○		企業研修Ⅱ	授業内で学んだ知識・技術を生かし、企業の求める人材となるため実践を行う。	2・後	320	20		○			○			
			○	短期留学	受け入れ先による								○			○
合計						28 科目		176 単位 (単位時間)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件：卒業規程単位の取得等の合格条件を満たすこと。	1学年の学期区分	2期
履修方法：各学期毎に行う試験、演習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。